

修士論文（要旨）

2010年7月

日本語母語話者と韓国人日本語学習者における授受補助動詞の使用に関する考察  
—「～テクレル」「～テモラウ」を用いた依頼表現を中心に—

指導 堀口純子 教授

国際学研究科

言語教育専攻

208J4007

鄭次姝

## 目次

<b>第1章 はじめに</b> .....	<b>1</b>
1.1 研究の背景.....	1
1.2 研究の目的.....	2
<b>第2章 先行研究概観</b> .....	<b>4</b>
2.1 依頼表現の定義と形式および日韓における依頼表現の特徴.....	4
2.2 授受表現の日韓対照.....	7
2.3「～テクレル」と「～テモラウ」の相違点.....	9
2.4「～テクレル」と「～テモラウ」の使用について.....	10
<b>第3章 調査概要と分析方法</b> .....	<b>12</b>
3.1 調査協力者.....	12
3.2 調査方法.....	12
3.3 アンケート内容.....	13
3.4 分析方法と手順.....	15
<b>第4章 親疎による「～テクレル」と「～テモラウ」の使用状況</b> .....	<b>18</b>
4.1 後輩にペンを借りる場面.....	18
4.2 同級生に消しゴムを借りる場面.....	20
4.3 先輩に試験の傾向を聞く場面.....	22
4.4 先生に推薦書を頼む場面.....	24
4.5 総合的考察.....	25
<b>第5章 親疎による「～テクレル」と「～テモラウ」の表現形式のバリエーション</b> .....	<b>30</b>
5.1 後輩にペンを借りる場面.....	30
5.2 同級生に消しゴムを借りる場面.....	35
5.3 先輩に試験の傾向を聞く場面.....	39
5.4 先生に推薦書を頼む場面.....	44
<b>第6章 まとめと今後の課題</b> .....	<b>49</b>
6.1 まとめと日本語教育への示唆.....	49
6.2 今後の課題.....	52

参考文献

## 要 旨

本研究では、依頼表現の選択に関わる様々な要因のうち、特に親疎関係に焦点を当て、日本語母語話者と韓国人日本語学習者がどのように「～テクレル」と「～テモラウ」を使い分けているか、依頼表現形式のバリエーションとして、どのような表現形式を使用しているかを調査した。調査方法としては、4つの依頼場面での自由記述による談話完成テストを行い、依頼表現形式を分類・集計した上で、場面ごとに分析・考察を行った。

その結果、日本語母語話者は「話し手からの心的距離が近い相手」すなわち、親しい後輩・同級生・先輩には「～テクレル」の使用が多く、「話し手からの心的距離が遠い相手」すなわち、親しくない後輩・同級生・先輩には「～テモラウ」の使用が多く見られた。このように、日本語母語話者では使用される表現が相手との親疎の程度により相補的にはっきり二分化されていることが明らかになった。一方、韓国人日本語学習者は「話し手からの心的距離が遠い相手」に「～テモラウ」表現を使用しているものの、概して親疎に関係なく「～テクレル」表現の使用が多く見られた。すなわち、韓国人日本語学習者の場合、日本語母語話者ほど親疎による「～テクレル」と「～テモラウ」の使い分けがはっきりとは見られなかったのである。また、興味深いことに、日本語母語話者は親しい先生にも親しくない先生にも「～ていただく」系の使用が圧倒的に多く、先生と学生のような社会的力関係が明確な場合には、「～テクレル」と「～テモラウ」の使い分けにおいて親疎にあまり影響されないということが示された。

依頼の際に用いる表現形式としては、聞き手が親しい後輩と親しい同級生の場合、日本語母語話者は授受補助動詞を含まない「～て形」の使用が最も多く、肯定疑問形より否定疑問形（「～てくれない？」など）を使用する傾向が見られた。一方、韓国人日本語学習者は、肯定疑問形（「～てくれる？」）の使用が最も多く、否定疑問形の使用はあまり見られなかった。聞き手が親しくない後輩と親しくない同級生の場合、日本語母語話者は、許可の問い掛け形、否定を伴う形式、及び願望形（「\*貸りて(も)いい(ですか)?」）の使用は見られたが、肯定を伴う形式の使用はほとんど見られなかった。一方、韓国人日本語学習者は、肯定を伴う形式（「～てくれる？」など）が最も多く、その次に、否定を伴う形式と「もらって」が欠如した許可の問い掛け形（「\*貸して(も)いい(ですか)?」）の使用が見られた。

日本語母語話者は、聞き手が親しい先輩の場合、直接形（「～てください(よ)」）の使用が圧倒的に多く見られた。しかし、聞き手が親しくない先輩の場合は可能+否定疑問形（「～てもらえませんか？」など）の使用が最も多く、肯定を伴う形式はほとんど見られなかった。一方、韓国人日本語学習者は、聞き手が親しい先輩だけでなく親しくない先輩である場合も「～てください(よ)」の使用が最も多く、否定を伴う形式より肯定を伴う形式を使用する傾向にあることが明らかになった。

聞き手が先生の場合、日本語母語話者は親疎に関係なく「ですが/けど」が結合した願望を伴う形式（「～ていただきたいの(ん)ですが…」）の使用が圧倒的に多く、さらに、「～ていただきたいの(ん)ですが」の後に、「よろしいです(でしょう)か」「お願いできませんか？」などのような意図表出の緩和に寄与する付加表現が多く見られた。一方、韓国人日本語学習者は、ごく典型的な依頼表現「～ていただけますか?」「～ていただけませんか?」の使用が最も多く、願望形の使用はほとんど見られなかった。願望形の使用が圧倒的に多い日本語母語話者の場合と対照的な結果が見られた。

## 参考文献

- 井出洋子・荻野網男・川崎晶子・生田少子(1986)『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂
- 庵 功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2000)『初級を教える人のための日本語文法 ハンドブック』スリーエーネットワーク p.148
- 井出里咲子・任栄哲(2001)「人と人とを繋ぐもの—なぜ日本語に授受動詞が多いのか」『月間言語』第3巻4月号 pp.42-45
- 稲熊美保(2004)「韓国人日本語学習者の授受表現の習得について—「もらう」系と「くれる」系を中心に—」『国際開発研究フォーラム』 26号 名古屋大学大学院国際開発研究科 pp.13-26
- 奥津敬一郎(1983)授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較—『日本語学』 明治書院 pp.2-4
- 岡本真一郎(2006)『ことばの社会心理学』ナカニシヤ出版 [第3版] pp.72-87
- 蒲谷 宏(2001)「日本語教育で授受動詞をどう教えるか」『月間言語』 4月号 pp.52-53
- 金澤裕之(2007)「「～てくださる」と「～ていただく」について」『日本語研究』第3巻2号 pp.47-53
- 金昌南(2001)「日本人大学生と韓国人大学生の「～てくれる/くださる」と「～てもらう/いただく」の使用実態」『千葉大学大学院社会文化科学研究』第5号 pp.45-58
- 金昌南(2002)「現代日本語における授受動詞について—韓国語との対照を通じて—」千葉大学大学院 社会文化科学研究』 博士学位論文
- 金ウンヨン(2006)「日韓両語の授受表現の比較分析—韓国語母語話者の「～てもらう」の習得過程の実態を中心に—」『新潟大学国際センター』 第2号
- 熊田道子(2000)「待遇意識からみた「～てくれる」系表現と「～てもらう」系表現」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』 第46輯 第3分冊 pp.63-72
- 佐治圭三(1992)『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』 ひつじ書房
- 笹川洋子(1999)「アジア社会における依頼のポライトネス(for you or for me)について—日本語・韓国語・中国語・タイ語・インドネシア語の比較—」『親和國文』 pp.154-181
- 新屋映子・姫野伴子・守屋三千代(1999)『日本語教科書の落とし穴』アルク
- 関根和枝(2007)「「～てください」の機能について—「～てください」は依頼か—」『言語教育・コミュニケーション研究』 2号 昭和女子大学大学院 pp.81-95
- 原田登美(2007)「日本語会話データベース(上村コーパス)」に見る日本語会話における「授受表現」の使用実態とポライトネス・ストラテジー」(『言語と文化』甲南大学国際言語文化センター<第10号> pp.117-137
- 朴八龍(1980)「日本語・韓国語の授受表現の対照研究」『日本語教育』 第40号 pp.113-120
- 堀口純子(1987)『「～テクレル」と「～テモラウ」の互換性とムード的意味』『日本語学』6巻4号 明治書院 pp.59-72
- 益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『月間言語』Vol.30.No.5 大修館
- 森山卓郎(2003)『コミュニケーション力をみがく 日本語表現の戦略』(日本語放送出版協会)
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院 pp.223-267
- 米沢昌子(2001)「待遇表現としての受給動詞—授受動詞の使用状況と話し手の心的態度の考察」同志社国文学 54 pp.20-29